

四国のみち⑭「みかん畑のみち」

【日時】 2017年6月1日（木曜日）

【天候】 薄晴

【メンバー】 CL中野法子 SL西 ゆみ子 宮本 晴 立川圭子 久米 仁 山田正一
大石 巖 大石良子 友成君子 中野裕司 三輪広明 計11名

【アクセス】

先行組は7時に勝浦道の駅に集合し、下山する那賀川側の大井に帰路の車を2台配車。

「寄ってね市」に集合した参加者の車は長時間駐車のを迷惑をかけないように、開催中のホテル祭り向け臨時駐車場に移動する。

【コースタイム】

生名登山口……1.5km（50分）……水呑大師……1.5km（20分）……鶴林寺 1.6km

（75分）……八幡神社……1.8km（60分）……大井……0.5km（15分）……駐車地点

計 歩行距離 6.9km 所要時間 3時間40分

【コース概要】

道の駅裏から生名谷川に沿って遍路宿のある生名バス停に向かう。ここから民家を抜けて、このコース表題となっている山腹「みかん畑」の中を歩くのだが、残念ながら今では手入れされず、みかんの木は放置され雑草に埋もれたままで枯れた木も目立つ。途中の萱葺き遍路小屋で休憩。ここは中津峰や轆轤山を前にして勝浦川の川並が眺められる展望地。簡易トイレも脇についている。

小屋からやがて、杉林の山道になり。途中に水が湧き出ている水呑太師の祠がある。鶴林寺越えの車道を2回横切り、石畳みの道になるとやがて鶴林寺の駐車場に出る。山門を抜け二十番札所鶴林寺境内へと入って行く。

お寺からは宿坊横の石畳みの道を那賀川側に下る。展望は途中で大きく蛇行した那賀川と大龍寺山を望めるビューポイント位しかない。一旦、車道に出て、砂防ダム横のコンクリート階段を下ると、大きな杉の木が立つ八幡神社。その脇の東屋が里程表に載っている大井休憩所。ここで休憩の後、みかん畑の脇を抜けると民家が現れ、下ると県道阿南鷺敷日和佐線に降り立つ。県道を少し歩けばこのコースの終点である水井橋袂のバス停に到着。

【リーダーの感想】

四国遍路道は元々、聖や山伏の修行として歩かれていた四国遍路がやがて盛んになって来た弘法大師信仰と複合して江戸時代になってそれらの内、八十八ヶ所がだんだんと固定してきたのだが、この勝浦の生名から鶴林寺を経て那賀川に下るコースが遍路道としては初めて国史跡に指定されたのでも判るように古来から変わらず遍路道として歩かれていた道で路傍に建つ南北朝時代の丁石や道標、そして道の相当部分を占める幾多の人々によって歩かれ摩滅した石段や石畳がそれを明かす歴史の重みを感じるにはいられない古の道だった。但し「みかん畑のみちコース」とはなっているが山腹のみかん畑は大半が手入れされず荒れ果てたままになっているのが残念だった。



① 鶴林寺境内



② 勝浦町生名



③ 水呑大師



④ 鶴林寺山門



⑤ 八幡神社

